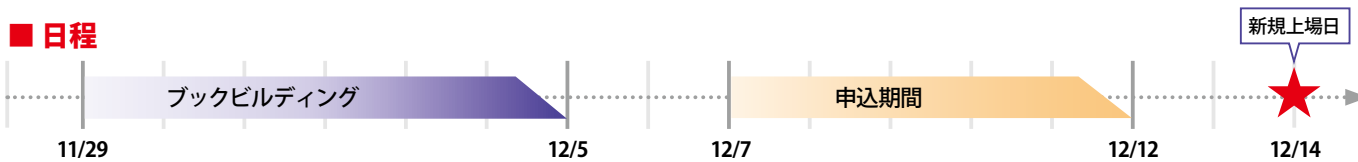


## IPO銘柄 エル・ティー・エス (6560・マザーズ)

コード	投資単位	公開株式数	仮条件 (上限 PER)	主幹事証券
6560	100株	公募: 50.00万株 売出: 15.00万株 (OA9.75万株)	630円~680円 (18.6倍)	大和証券

### ■ 日程



## AIなど応用したコンサルティング事業を展開

### ■ 事業内容

企業変革と働き方改革を推進するプロフェッショナルサービス事業と人材マッチングプラットフォーム「アサインナビ」のプラットフォーム事業を手掛ける。プロフェッショナルサービス事業は、ビジネスプロセスマネジメント、コンサルティング、デジタル活用サービスの3つを組み合わせサービスを提供。もう一方のプラットフォーム事業では、IT人材を探している発注側の企業やIT企業と、フリーランスの技術者をマッチング。「アサインナビ」は9月末時点で法人2,557社、個人2,629人の会員を有している。17年12月期3Qの売上高構成比はプロフェッショナルサービス事業が92.8%、プラットフォーム事業が7.2%となっている。

### ■ 特徴

プロフェッショナルサービス事業のビジネスプロセスマネジメントでは、事業構造をビジネスプロセスとして可視化し、プロセス改善の手法を立案、改善の実行支援、組織・人材を育成する一連の取り組みを支援している。コンサルティングは事業の最前線まで現場に入り込み、成長戦略構築や事業開発、業務改善を支援。デジタル活用サービスはAI(人工知能)、IoT(モノのインターネット)などの技術を応用し、テクノロジーサービスやデジタル事業構想策定などを行っている。

## アナリストコメント

### ■ 定量分析

17年12月期の連結経常利益は前期比14倍の1億7,000万円となる見込み。足元は大手企業を中心に既存顧客の拡大、新規顧客の獲得が進んでおり、高成長。プラットフォーム事業も先行投資を吸収して第3四半期段階で営業黒字を達成している。

### ■ 定性分析

AIやIoT、働き方改革といった株式市場の好むキーワードが散りばめられた案件で、一般的に収益力の高いコンサルティング系のビジネスを手掛けている。テーマ性に乗るベンチャー企業として投資家の関心は高くなりそうだ。「アサインナビ」の成長性も注目ポイント。

### ■ 需給状況

仮条件の上限で試算した市場からの吸収金額は5億円程度。軽量感の強い規模であり、需給妙味は非常に大きい。ただ、ロックアップ条項が付されているもののベンチャーキャピタル保有株が多いため、見た目ほどの軽量感がない点には注意が必要だろう。(小泉健太)

### ■ 類似企業

エル・ティー・エス(6560・マザーズ)	予想PER18.6倍 (仮条件上限)
シグマクス (6088・東証1部)	予想PER37.4倍
バイカレント・コンサルティング (6532・マザーズ)	予想PER15.8倍

### ■ 引受証券

大和証券、SBI証券、SMBC日興証券、いちよし証券、岩井コスモ証券、マネックス証券、エース証券、藍澤証券

## 業績・財務指標

	売上高 (百万円)	前年比 (%)	経常利益 (百万円)	前年比 (%)	純利益 (百万円)	前年比 (%)	EPS (円)	1株あたり 年間配当金(円)
15年12月期(実績)	1,897	—	101	—	62	—	19.6	—
16年12月期(実績)	1,976	4.2	11	▲89.1	-143	赤転	—	—
17年12月期(会社予想)	2,395	21.2	170	14.4倍	113	黒転	36.6	—

※ 15年12月期より連結決算。16年12月に株式分割(1株→1,000株)を実施。15年12月期のEPSは遡及修正

	発行済み 株式総数(株)	総資産 (百万円)	純資産 (百万円)	資本金 (百万円)	BPS (円)	自己資本比率 (%)	自己資本当期 純利益率(%)
15年12月期	3,213	1,252	768	290	239.2	61.4	8.5
16年12月期	3,261,000	935	511	296	167.5	54.7	—

※ 15年12月期のBPSは遡及修正

## 大株主上位(上場前)

	氏名または名称	所有株式数(株)	所有割合(%)
1	樺島 弘明	993,000	23.64
2	クレスコ	664,000	15.81
3	ドリームインキュベータ	511,000	12.16
4	李 成一	365,000	8.69
5	グローバル・ブレイン5号投資事業有 限責任組合	345,000	8.21
6	塚原 厚	295,000	7.02
7	金藤 正樹	290,000	6.90
8	エル・ティール・エス	208,000	4.95
9	吉田 悦章	100,000	2.38
10	高麗 貴志	85,000	2.02

## 経営陣

役職	氏名
代表取締役社長(CEO)	樺島 弘明
取締役副社長(COO)	李 成一
取締役	吉田 悦章
取締役(CFO経営管理部長)	高麗 貴志
常勤監査役	小寺 久隆
監査役	栗田 敏夫
監査役	高橋 直樹

# モーニングスターIPOレポートの読み方

## 特 徴

モーニングスター IPO<sup>(※1)</sup> レポートでは、日本国内の取引所に新たに上場する銘柄を取り上げ、モーニングスターが位置する中立的な第三者としての立場から IPO に関する情報を提供いたします。ブックビルディング<sup>(※2)</sup> が始まる前にレポートを提供することにより、IPO への参加を検討している投資家にとって有用な情報となるでしょう。モーニングスター IPO レポートには、企業名・コード・公開株式数など基本情報やブックビルディング期間・申込期間など IPO 日程のほか、モーニングスターの担当アナリストによるコメントを掲載いたします。

※1 IPO (Initial Public Offering)：新規株式公開。

※2 ブックビルディング：引受証券会社が機関投資家などの意見をもとに決定した仮条件を投資家に提示し、投資家の需要がどの程度あるかを把握することによって、マーケットの動向に即した公開価格を決定する方法。一般的に需要積み上げ方式と呼ばれる。

## 項目説明

### ■ 事業内容

新規上場する企業の事業概略を解説します。主要製品やサービスのほか、セグメント別の売上高構成比率などを記載。新規上場時の事業の状況や、先行きの見通しなども交えて分かり易くお伝えいたします。

### ■ 特徴

新規上場企業の設立経緯から現在の事業環境、ビジネスモデルや事業の強み、顧客動向、業績内容、海外展開、経営陣など様々な観点から特筆すべきエッセンスのみを抽出し、掲載いたします。

### ■ 定量分析

新規上場時に開示される前期、前々期の業績実績と今期の会社計画を用い、業績の成長性や収益性、財務安定性の面から新規上場銘柄を分析いたします。

### ■ 定性分析

新規上場銘柄が持つ事業の特性や事業環境、セクター動向などを踏まえ、定性的な評価をするほか、足元の株式市場の状況などを考慮して、マーケットから見た新規上場銘柄に対する見方なども掲載します。

### ■ 需給状況

公募・売り出しの株数と仮条件をふまえ、市場からの吸収金額を試算するほか、足元の新興市場の動向、類似企業の株価推移、ベンチャーキャピタルによる保有株放出の可能性なども考慮し、上場初日の需給状況を予想いたします。

### ■ 類似企業

新規上場企業と同じ業種に属する競合他社や類似企業を取り上げて PER を併記いたします。PER の水準は初値の参考指標として有効です。